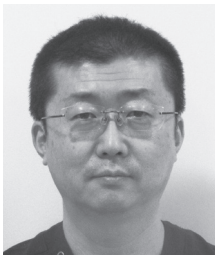


# 理学療法かわら版

一般社団法人  
山形県理学療法士会

目次	創立50周年記念式典を終えて …… 1	事務局だより …… 8
	新生涯学習制度開始から2年経過して …… 2	編集後記 …… 8
	JRATの概要・活動報告 …… 5	



## 一般社団法人山形県理学療法士会 創立50周年記念式典を終えて

実行委員長 守 一彦 (山形県立中央病院)

先の令和6年2月23日(金)に山形国際ホテルにおいて一般社団法人山形県理学療法士会創立50周年記念式典が開催されました。出席者は記念講演117名、記念式典118名、記念祝賀会82名でした。公益社団法人日本理学療法士協会の齊藤秀之会長による記念講演においては「10年後を展望する～山形県理学療法士会に期待すること～」と題し、ご講演をいただきました。我々理学療法士の将来を勘案したとき、昭和・平成の理学療法史を振り返り、総括すると同時に新たな理学療法の体系を構築することが重要であり、そのためには理学療法とリハビリテーションの峻別を社会的課題として位置づける必要があると話されました。また、卒業教育の延長ではなく国民本位の現場実践力を醸成する、職場・地域単位での理学療法士の質向上に連動する卒前教育・卒業研修に取り組む必要もあるとの内容でした。

次に、記念式典では岩井章洋会長の式辞にてご臨席の方々への感謝の辞があり、昭和47年11月1日の当会発足以来、平成18年に法人化し平成21年に一般社団法人山形県理学療法士会へ移行したなど当会の歴史が語られました。最後に我々は創立50周年の歴史を基礎として、より一層、保険・医療・介護・福祉等

に貢献するため努力し、今まで以上に社会に貢献できる組織として研鑽し発展を目指していきますと結びました。続いて6名の方から来賓祝辞を頂きました。初めに吉村美栄子県知事よりお祝いの言葉と会員の皆様に対して日頃の業務に感謝し、リハビリテーションの技術向上のため研鑽を積み重ねていることに深く敬意を表しますとのお言葉を頂きました。そして賛助会員である有限会社エムサポート様はじめ13社への感謝状と6名の会員へ功労賞が贈呈されました。

最後の記念祝賀会においては歴代会長スピーチとして第五代会長高橋穂先生より当会の歴史紹介と激励のお言葉を頂きました。祝宴の中、来賓・会員の方々との歓談では災害時支援、高齢者・労働者支援事業などについて議論が交わされ、当会への社会貢献を期待するものと思われました。

さてこの度、創立50周年記念式典を無事に開催することが出来ました。これもひとえに会員各位のご協力の賜物と深く感謝いたします。これを機に全会員がさらなる力を結集し、国民の保険・医療・介護・福祉の向上にご尽力いただけますよう、今後ともよろしくお願いたします。



会員表彰式

# 新生涯学習制度開始から2年経過して

(履修状況データ等を踏まえて)

教育局長 鈴木 栄三郎 (山形県立保健医療大学)

教育局長を務めさせていただいている山形県立保健医療大学の鈴木栄三郎と申します。会員の皆様におかれましては日頃より県士会活動へのご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。新生涯学習制度に移行して2年が経過しようとしております。今回は当会員の皆様の最新の履修状況をお知らせしつつ、今後の課題について少し共有させていただければと存じます。

はじめに、令和6年3月14日時点での当会員の会員数および在会者の履修区分別の人数を図1に示します。当会の会員数は1,140名で、そのうち在会者が1,005名、休会者が135名となっています。在会者1,005名のうち前期研修履修者が288名(29%)、後期研修履修者が155名(15%)、登録理学療法士が562名(56%)です。なお、令和5年3月に日本理学療法士協会から公開された全国データによれば、山形県の登録理学療法士取得率<sup>\*1</sup>は67.0%(全国平均63.5%)、前期研修修了率<sup>\*2</sup>は66.0%(全国平均57.8%)です。認定理学療法士は123名で、専門理学療法士は12名となっております。

次に、前期研修履修者の受講項目別の履修状況を図2に示します。図内の履修率(%)とは、全ての履修者のうちその項目を履修した者の割合を百分率で示しております。2023年度入会の方々は、昨年9月からeラーニングが受講可能となりましたが、県士会主催の前期研修(対面形式)で受講したA-1、A-2、A-6を除く他の項目の履修率は約5~30%と低い状況です。2022年度入会の方々は、早い方では今年度で全ての項目の履修が完了し(前期研修を修了し)、来年度の4月から後期研修に移行することとなっておりますが、前期研修履修者同様、A-1、A-2、A-6を除く他の項目の履修率は約30~60%程度に留まっています。2021年度以前に入会の方々は、eラーニングの履修状況は約65~90%である一方、Dの実地研修の履修率が2%とかなり低い状況です。こちらの皆様は、旧生涯学習制度からの移行処置の対象となっており、各々の履修状況に応じて新たに必要とされる項目を受講すれば次のステップに進める形となっています。具体的には、2021年度入会の方の場合はDの実地研修が完了すれば後期研修に移行可能であり、2020年度以前入会の方の場合は前期研修・後期研修の項目を同時履修可能で、場合によっては後期研修の条件も満たせば登録理学療法士の取得まで可能な方々も含まれます。

続いて、後期研修履修者の受講項目別の履修状況を図3に示します。現時点での後期研修の対象には新生涯学習制度開始以降の入会者はおらず、旧生涯学習制度からの移行処置の方々となっております。履修率はA項目の約

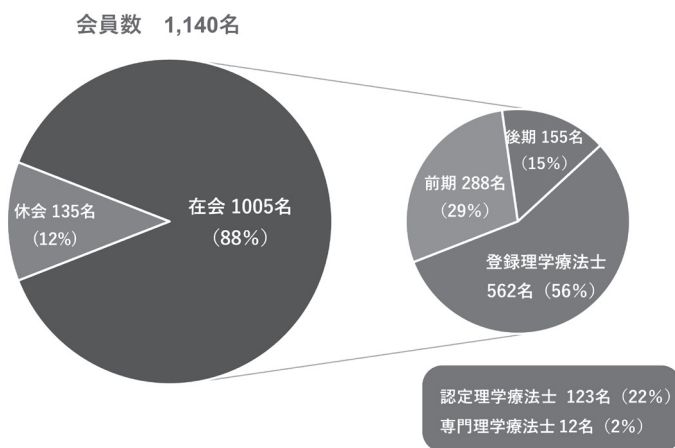


図1 当会の会員数および履修区分別人数

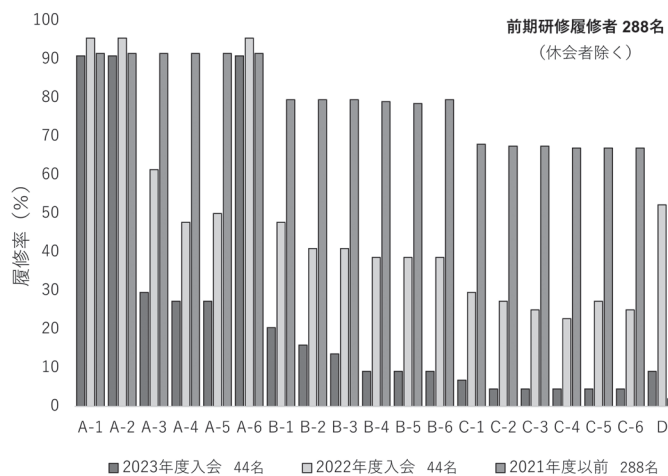


図2 前期研修履修者の受講項目別履修状況

80%、実地経験（36カ月以上）の62%を除いて、他の多くの項目が約20～40%に留まっている状況です。実地経験については所属施設への在籍月数の登録であり、自動的にカウントされますが、やはりeラーニングの受講があまり進んでいない状況と考えられます。

続いて、登録理学療法士の履修状況として、取得ポイント数別の人数を図4に示します。ポイント数が0～10ポイントの方が全体の44%、10～20ポイントの方が20%であり、合わせて64%の方々が20ポイント未満という状況です。新制度開始から2年が経過し、更新まで残り3年という時間の面のみ考慮すると、現時点で20ポイント（更新に必要な50ポイント×2／5年）以上取得している状況が望ましいかと思われます。

続いて、認定理学療法士の領域別の取得状況を図5に示します。認定理学療法士は123名で、取得の多い領域順に脳卒中（46名）、運動器（25名）、介護予防（11名）、循環（10名）、呼吸（9名）、地域理学療法（9名）となっています。臨床で遭遇しやすい主要な疾患の領域を中心に、介護予防や地域理学療法領域の取得が目立ちます。その他の領域は少なく、いまだ取得されていない領域も存在しています。

最後に、専門理学療法士の領域別の取得状況を図6に示します。専門理学療法士は12名で当会の在会会員数の1%であり極めて少ない状況です。領域は多い順で基礎理学療法領域（6名）、運動器理学療法（3名）、スポーツ理学療法（3名）、理学療法教育（3名）であり、他は2名以下もしくはゼロとなっております。専門理学療法士の少なさは全国的にも同様であり、協会全体での課題ともなっております。

さて、ここまで、当会の在会会員の履修区分別の最新の履修状況をお示ししてきました。2022年の新生涯学習制度の開始から2年経過した段階の当会の履修状況としては“全体的にやや遅れている”と言わざるを得ないのではないかと思います。この背景として、制度開始初年度の昨年に引き続き、制度自体の仕組みや具体的な手続きの理解が不足している状況が今なお続いていることが推察されます。また、今回の最新の履修データによれば、履修があまり進

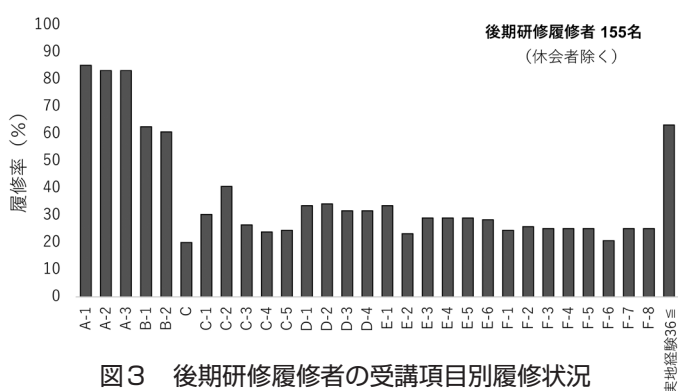


図3 後期研修履修者の受講項目別履修状況

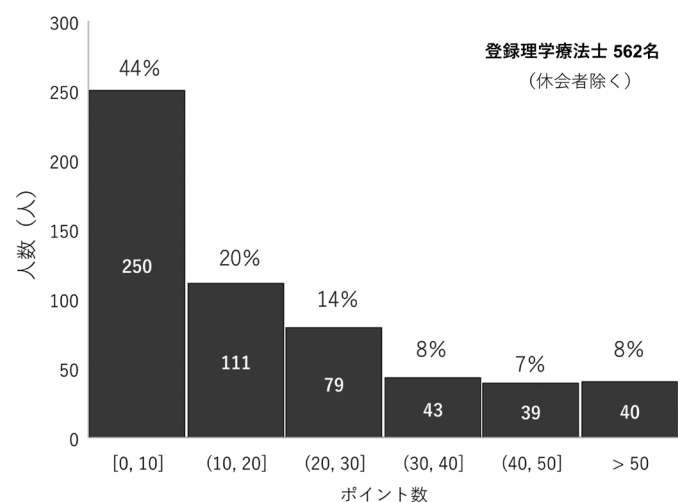


図4 登録理学療法士の取得ポイント数の状況

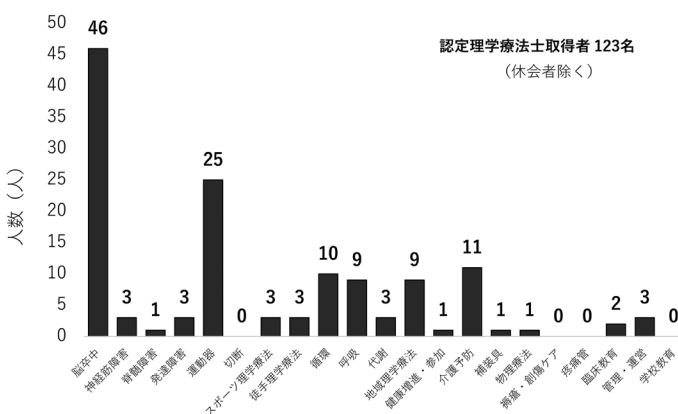


図5 認定理学療法士の領域別の取得状況

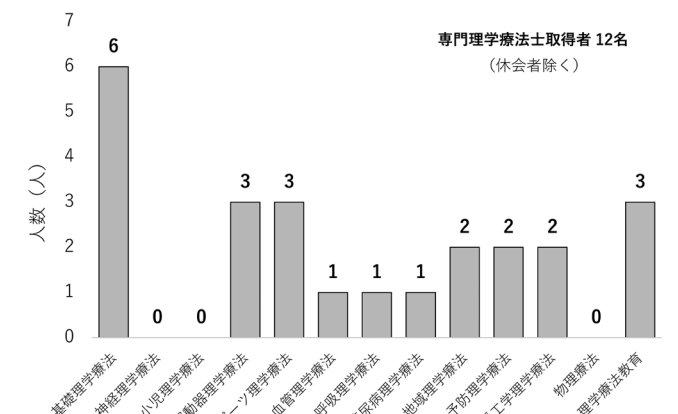


図6 専門理学療法士の領域別の取得状況



んでいない項目として、eラーニングによる受講項目や前期研修のDの实地研修が挙げられます。eラーニングによる学習は、時間や環境に左右されにくく、自身のペースで受講できる等のメリットがある反面、自らのみで学ぶモチベーションの維持や一方方向性で受動的な学びとなりやすい等のデメリットがあると思います。新生涯学習制度では、社会に対する理学療法士の最低限の質を保証するために、これまで以上に多（多くの）または他（他の）領域の標準的な知識の習得が求められています。eラーニングに限った話ではありませんが、やはり会員一人一人が日頃の業務の関連領域に関する学習はもちろんのこと、関連領域以外の内容に対しても能動的な学びが求められているものと思います。前期研修Dの实地研修に関しては、OJT（On the job training）による卒後教育体制の構築と充実化が求められているところではありますが、履修が進んでいない理由のひとつには単に手続き方法の理解不足の可能性が考えられます。履修登録には受講者、指導者、施設代表者の三者による手続きが必要であり、手続きの進捗状況を三者で把握しておくことが重要です。

最後に、この記事をお読みにになりまたら、良い機会かと思しますので、まずは協会マイページからご自身の履修状況や今後必要な手続きをご確認いただき、取得・更新に向けて計画的に学習を進めていただければと思います。当会での生涯学習制度の運用におきましても、コロナ禍で培われたオンライン形式での参加しやすい学習、対面形式での人同士のつながりのある研修会、症例検討会を通じた暗黙知の学び、職場基盤型の学習の機会（士会承認症例検討会、セミナー）など、それぞれの学びの利点を活かしながら、個人のライフスタイルに応じた学習機会を提供できるよう努めて参りたいと思います。会員の皆様には引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

\*<sup>1</sup> 登録理学療法士取得者 ÷ 入会6年目以上の会員数

\*<sup>2</sup> 前期研修修了者 ÷ 入会3年目以上の会員数

あなたの笑顔が見たいから  
株式会社 蔵王サプライズ

●リネンサプライズ・ホスピタルリネン事業部 ●ホームヘルスケア事業部 ●リースキン事業部

ホームヘルスケア事業部 山形市銅町二丁目21番4号 TEL (023) 674-9600  
支店・営業所 仙台支店/新庄営業所/庄内営業所

生命科学・医療福祉分野を総合的にサポートする

株式会社 シバタインテック

■山形支店 〒990-2323 山形県山形市桜田東二丁目1番21号  
TEL:023-642-8153 / FAX:023-623-5853  
本社(仙台)・荘内営業所・鶴岡営業所・郡山営業所・ロジスティックセンター・メンテナンスセンター

思いやりリハビリ・まごころケア  
(有) 福祉用品やまがた

介護用品ショールーム  
〒998-0842 山形県酒田市亀ヶ崎4-2-40  
電話 (0234) 26-1725  
FAX (0234) 26-6780

SUPON 義肢・装具・車いす  
他 整形医療器具製造・販売

(有) エムサポート

〒990-2212 山形市上柳110  
TEL(023)687-2800 FAX(023)687-2812  
取引銀行 山形銀行宮町支店(普通)0241881

医療機器・福祉用具販売レンタル  
TOTAL MEDICAL COMMUNICATION

株式会社 トーク

日医器流通正事業所 第9406017号 〒997-0806  
福祉用具貸与事業所 0670700434 山形県鶴岡市遠賀原字福荷41-2  
E-mail:somu@took.co.jp TEL (0235) 22-1009 FAX (0235) 25-8139

医学書のことならお任せください

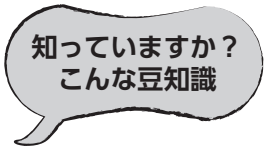
日本医書出版協会認定医学書専門店  
医学書、看護学書、医書一般

株式会社 高陽堂書店

山形市大野目3-1-17 TEL 023(631)6001 FAX 023(632)1168  
http://www.koyodo.com/ email info@koyodo.com

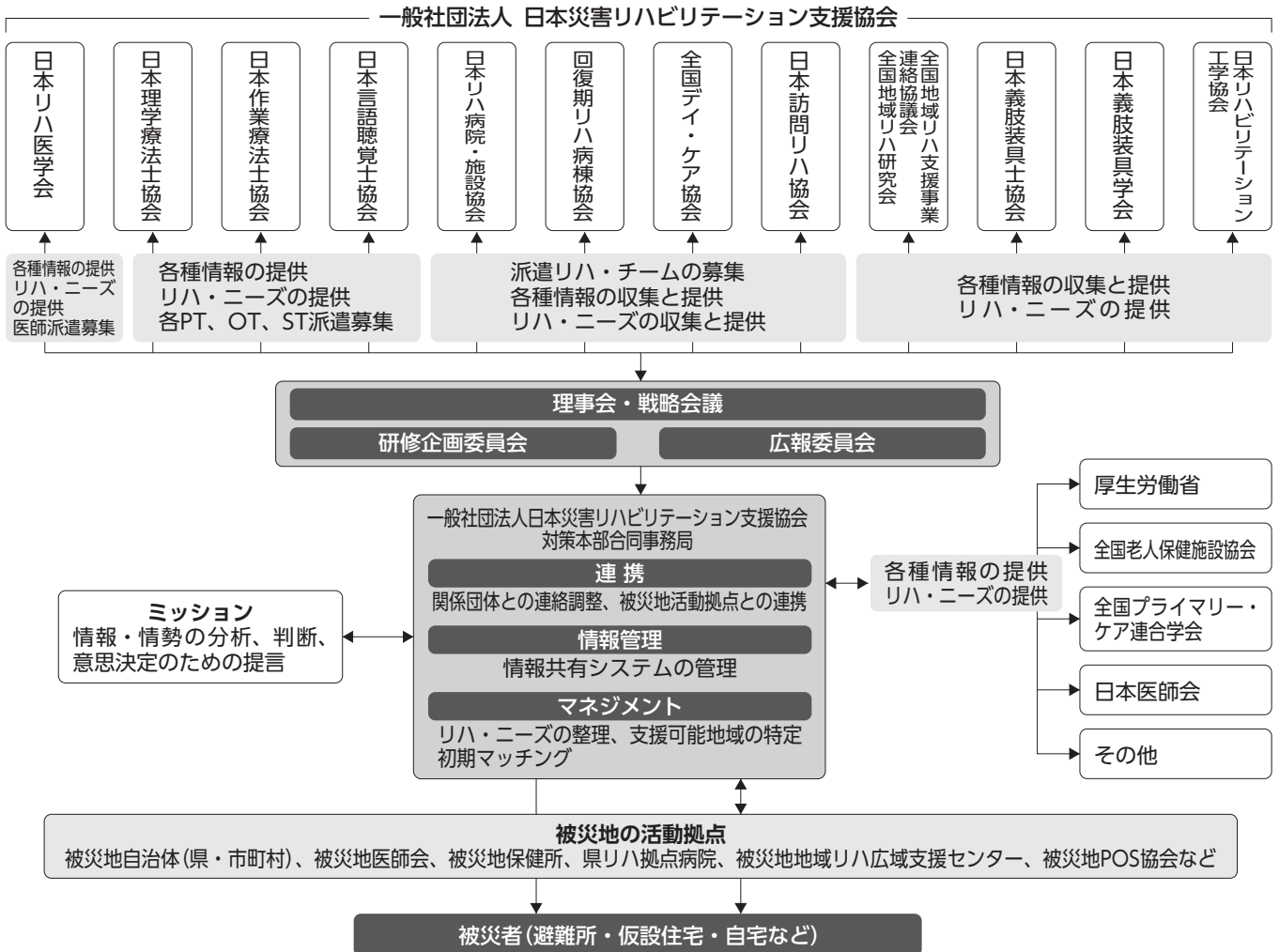
# JRATの概要・活動報告

早坂慎也 (いちまる訪問看護ステーション)

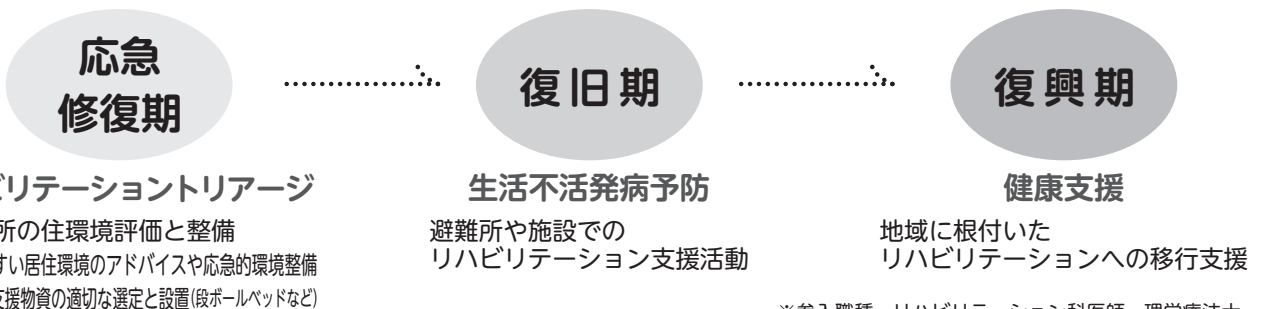


JRATとは？

【一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会】



## 災害のフェーズに合わせたリハビリテーション支援 (災害に関連した身体機能、生活能力の低下予防)



※ 参入職種 リハビリテーション科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー、義肢装具士、その他医療福祉関連職

※ 図は一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会より引用

東日本大震災より13年目を迎えましたが、現在も能登半島地震で多くの方が被災され現在も避難生活を送っています。

JRATは東日本大震災リハビリテーション支援10団体（2011年4月13日設立）の活動を基に、2013年7月26日に、来る災害に備えて「大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会」として再結成され全国の大規模災害における支援活動を行っている団体です。山形県においても事務局（部長：山大整形外科高木理彰教授）である山形大学付属病院を中心に「やまがたJRAT」が発足しました。

避難所では災害における不慣れな環境から生活が不活発になり、身体機能や認知機能の低下、呼吸・循環器、深部静脈血栓症などの生活不活発病が生じやすくなります。これらを予防するために早期より災害リハビリテーションとして関わり、避難された方々の健康的な生活や活動を支えます。今回の能登半島地震においても、やまがたJRAT要請を受けて発災14日目から継続的に支援を行っていますので一部を紹介いたします。

## 活動内容 ①避難所環境アセスメント

ライフライン、生活環境、衛生状態、動線等チェック



**施設・避難所等ラピッドアセスメントシート (OCR対応様式) ver.190115**

○の欄は、使用可能・該当・対応済であれば、✓を入れてください  
 ＊A: 充足 B: 改善の余地あり C: 不足 D: 不全

調査日	20	年	月	日	#A-D 選択式の項目が全てA評価になるまで連日記入 #人数は概算可	
	AM	PM	時	分		
調査者氏名	調査者所属					
電話番号						
施設名	所在地		固定電話			
			携帯電話			
			FAX			
	避難所運営組織		代表者名			
避難者数 (A)	内訳	男性 (A)		女性 (A)		
避難者数 (再掲)	昼間人数 (A)	夜間人数 (A)		未就学児 (A)		
ライフライン / 通信	飲料水	A~D	食事	A~D	使用可能トイレ	A~D
	電気	A~D	ガス	A~D	生活排水	A~D
医療支援	固定電話	<input type="checkbox"/>	携帯電話	<input type="checkbox"/>	簡易電話	<input type="checkbox"/>
	救護所設置	<input type="checkbox"/>	医療チームの巡回	<input type="checkbox"/>		
衛生環境	遮音度	A~D	毛布等器具	A~D	室温管理	A~D
	トイレ	掃除	<input type="checkbox"/>	土足禁止	<input type="checkbox"/>	下水
				ゴミ	集積場所	<input type="checkbox"/>
				室内	禁煙	<input type="checkbox"/>
					ペット	収容所 <input type="checkbox"/>
要配慮者 (A)	うち	医療的ケア要者	うち	福祉的ケア要者	うち	外国人
要配慮者 (A)	人工呼吸器	在宅酸素	通病	要緊急処置	要緊急処置	妊婦
	要インスリン治療	要透析のある	要緊急治療	要緊急処置	要緊急処置	
	難病	難病併発	難病併発	難病併発	難病併発	
有症状者 (A)	発熱	咳・痰	下痢	嘔吐		
傷病者数 (A)	インフルエンザ		感染性胃腸炎			
その他緊急事項						

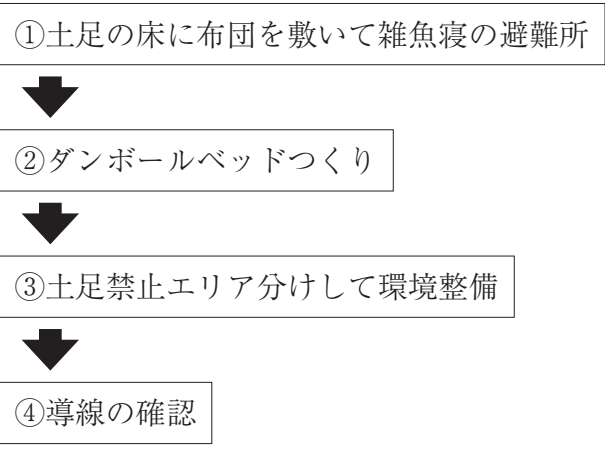
問合せ先：芝罘工業大学 システム工学部  
市川 学 (michi@shibaura-it.ac.jp)



ラピッドアセスメントシートに記載して他の支援者などと共有している



活動内容 ②環境整備（例）



活動内容 ③生活不活発病予防



地元の「シルバーリハビリ体操」を避難者の方同士で実施できるように導入のお手伝い

④深部静脈血栓症予防・スクリーニング



実際に足を見せていただき、深部静脈血栓症が疑わしい場合は医師に相談

※写真と活動報告は山形済生病院 安倍恭子RPTより寄稿

## 事務局だより

### 【会員異動届の手続きについてのお願い】

会員の皆様に刊行物が確実に送付できますよう会員異動届の手続きをお願いいたします。

施設に勤務されている会員で自宅会員として登録している場合は、速やかに勤務先を登録し、勤務先を異動した場合は異動申請を行なってください。会員の皆様には、改めてご自身の会員情報登録状況のご確認をお願いいたします。

なお、登録状況の確認は日本理学療法士協会ホームページの「マイページ」の会員管理－会員情報確認より行えます。また、勤務先の異動や改姓などの申請は、会員管理－異動申請より手続きを行なってください。皆様に情報が速やかに伝達できますよう何卒ご協力をお願いいたします。

## 編集後記

かわら版通巻33号は、2022年4月から開始された新学習制度の経過をデータの提示をしながら説明していただきました。改めて、会員の皆様自身の履修状況や今後必要な手続きをご確認いただき、取得・更新に向けて計画的に学習を進めていただければと思います。

2024年1月には、能登半島地震が起き、今尚多くの方が避難生活を続けています。本県からもJRAT派遣依頼があり被災地での支援活動が行われました。本号では実際の活動報告も掲載しています。理学療法士としてできる災害医療を学ぶ上でも大変勉強になる内容だと思います。

新学習制度や災害医療など理学療法士の置かれる環境や活動内容は日々変化していると感じます。本号の内容も今後の活動の一助になると思います。今後ともかわら版へのご協力をよろしくをお願いいたします。今号の発行にあたり、寄稿して下さった皆さまに心より感謝申し上げます。

広報部 山形県立中央病院 黒沼 大紀

LCS

オーダーメイドの福祉用具  
株式会社 ライフケアサポート

山形県東根市温泉町1-13-10  
TEL0237(43)6833 FAX0237(43)6832

医療の未来を見つめる総合商社



岡崎医療株式会社

■本社 山形市あこや町三丁目4番3号  
■山形営業所 〒990-0025 ☎023-623-0546  
■鶴岡営業所 鶴岡市大字安丹字村上4番10号  
〒997-0057 ☎0235-22-0106

福祉用具開発・レンタル販売 <http://www.tamatsu.jp>



株式会社 TAMATSU  
本社 山形県鶴岡市美咲町32-7(〒997-0857)  
TEL 0235-23-6333/FAX 0235-25-3889



◆山形県厚生省労働省指定◆  
(有) 渡部義肢

◆営業品目◆  
義足・義手、コルセット、車椅子、ステッキ、下肢装具、上肢装具、骨格義足(モジュール)  
〒997-0861 山形県鶴岡市桜新町8番地52号  
TEL(0235)25-9366 FAX(0235)25-9364

オーリンク株式会社

山形市北町三丁目8番20号  
電話(023)681-3633(代)

Your Healthy and Active Life With  
YAMAGATA PROSTHESES INSTITUTE

あなたの健康で快適な人生の為に、山形義肢研究所ができること

有限会社 山形義肢研究所

ACCESS 山形市飯田五丁目5番39号  
TEL 023-632-5214 FAX 023-632-5215

Okaze  
OKAZE CORPORATION

株式会社大風印刷 〒990-2338 山形県山形市蔵王松ヶ丘1-2-6 TEL.023-689-1111  
●天童営業所・☎023-654-5715 ●東根営業所・☎0237-53-0117 ●仙台営業所・☎022-399-7861  
●東京営業所・☎03-5829-6650 ●ガッタハウス・☎023-631-5579 ●立谷川事業所・☎023-686-5105

■発行／一般社団法人 山形県理学療法士会

■発行者／岩井 章洋

■編集者／守 一彦 黒沼 大紀 金子絵梨花

■広報部／E-mail : yamagataptkouhoubu@gmail.com